

## 文字の読み書き

2020.7.12 北陸定例会

藤坂龍司

はじめに

<教える時期>

年少か年中 数字とひらがなの読み

年長 カタカナの読み

小学校 漢字

書きは読みより数か月遅れで。

### 1. 文字の読み

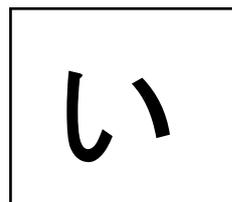
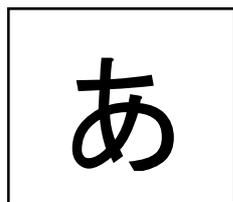
<教材>

・50音表で終わらせない。

・手書きのひらがなカードか、平がなつみきがお勧め。プリントの場合、ゴシック体がお勧め。市販のカードは勧めない。

<教え方>

・「あ」と「い」の受容的弁別から。できたら表出へ。



・「あ」と「い」ができたら、順次、「う」「え」「お」

・「あ」行ができたら、か行以降へ。平がなは数が多いので、5つ（例えば、「か、き、く、け、こ」）くらいまとめて教えてもよい。

<濁音>

・清音を覚えたら、濁音を教える。教えるときは、必ず対応する清音と対比させる（「は」と「ば」など）。

・濁音のカードは、濁点を大きめに書く。

は                      ば<sup>〃</sup>

・「ば」と言いながら、濁点の部分指さす。

<半濁音>

濁音（が行、ざ行、だ行、ば行）を覚えたら、半濁音（ぱ行）へ。は行、ぱ行と対比させること。

は                      ば<sup>〃</sup>                      ぱ<sup>◦</sup>

<単語の読み>

清音、濁音、半濁音の読みができるようになったら、単語の読みへ。

受容的弁別

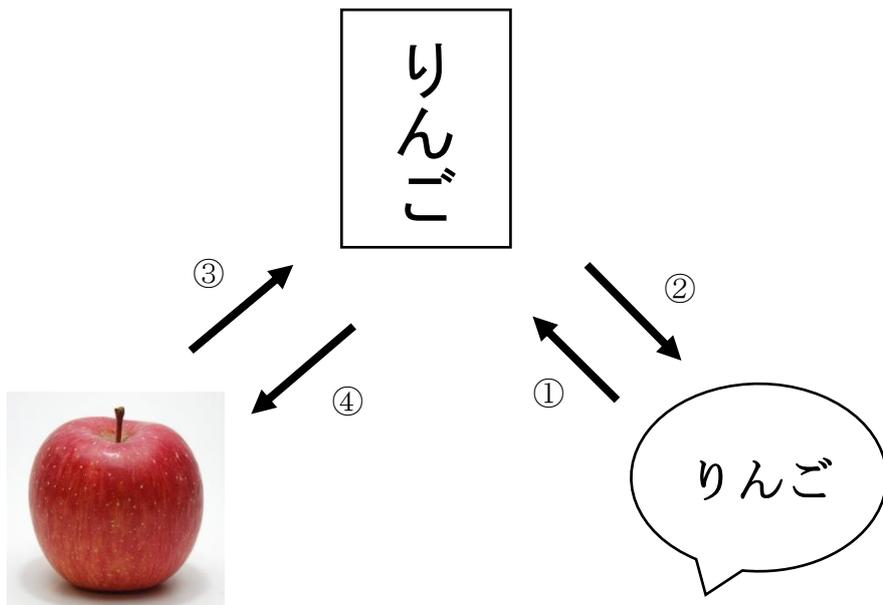
りんご                      みかん                      いちご

これでは頭文字さえ読めれば、正解できてしまう。それでは複数の文字を同時処理する力は育たない。そこで、次のようなカードを作る。これなら二音を同時処理しなければ、正解できない。

くま                      くし                      うま                      うし

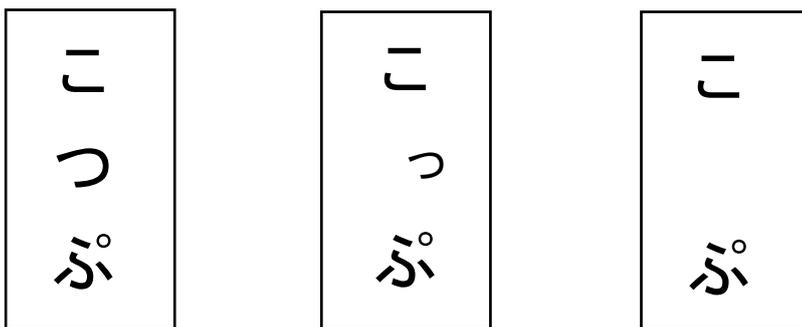
<単語と物との対応>

「単語が読める」というためには、①「りんご」と言われて「りんご」カードを選べる、②「りんご」カードを見て「りんご」と言える、というだけでなく、さらに③実物のリンゴを見て、リンゴカードを選べる、④「りんご」カードを見て、りんごを選べる、ということが必要。



<小さい「っ」>

小さい「っ」が読めるように、以下のように3種のカードを対比させる。



3つを区別させるために、指のプロンプトが役に立つ。「こっぶ」は一文字ずつ指でタップしながら。「こっぶ」は「っ」を指でジャンプさせるように。「こぶ」はすばやく表面を滑らせるように。

<小さい「や」「ゆ」「よ」>

き

き  
よ

き  
よ

## 2. 文字の書き

<教え方>

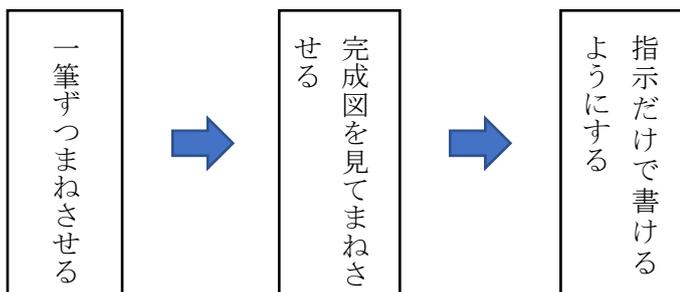
まず線模倣から。特に曲線がまねできること。

姿勢は、子どもの横に並んで座る。

B4のらくがき帳がお勧め。



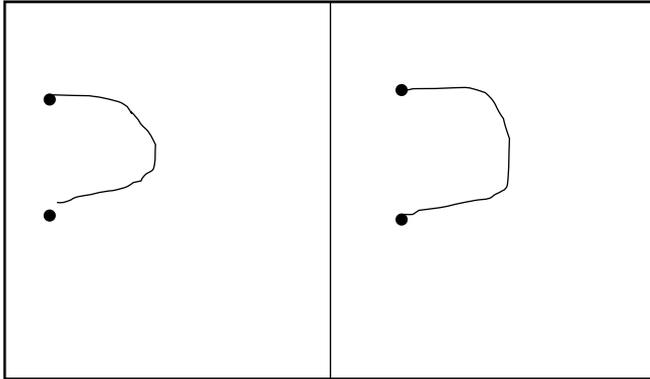
基本的な教え方は、①一筆ずつまねさせる。→②完成図を見てまねさせる。→③ことばだけでその文字が書けるようにする。



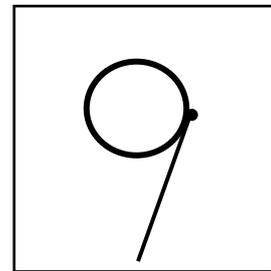
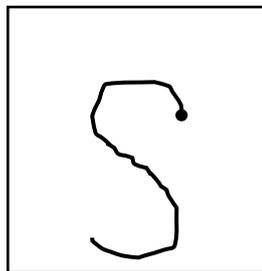
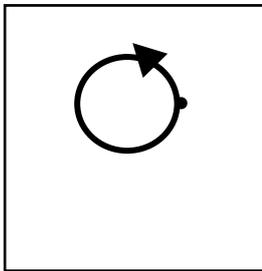
- ・模倣だけでは書けないものは、手を添えてプロンプトする。

### <数字>

1、3、7、4、5くらいから。

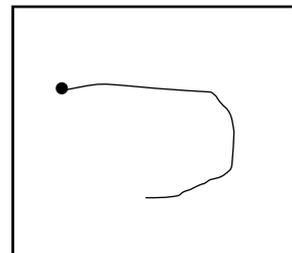
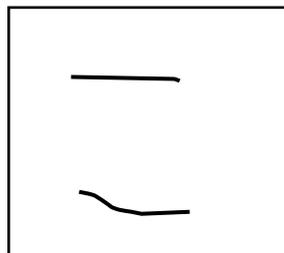
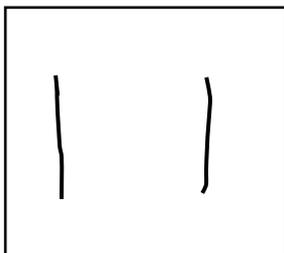


- ・8と9は書くのが難しいので、先に簡単な平がなを教えた方がよい。



### <ひらがなの書き>

「し」「つ」「こ」「い」「う」「に」から。



### <教え方>

- ・モデルを見せるだけで書けるものはそうする。そうでないものは、手を添えてプロンプトする。

